

神戸

今年の一月八〜九日、「日本聖公会青年担当者の集い」が開催されました。聖公会新聞2月号に詳しくレポートされていますが、その中で、「今回の青年担当者の集いで最も大きな話題となったのが『ユースコーデイネーター』の働きについてでした」と書かれているように、各教区の青年担当者（主に聖職者が中心？）の中から「各教区に、青年活動をコーデイネーター、サポーターする専任の担当者を設置したい」という希望・思いが語り合われたようです（原稿の詳しい内容は全国青年ネットワークのブログにも掲載されています）。

神戸教区には青年交流会・中高生大会といった2大ユースプログラムがあるのですが、その両方のチャプレンの瀬山会治司祭に、「今の僕のような立場をより明確に表現する名称などはないものですかねえ」とかねがね相談していたところ、前述の青年担当者の集いに出席された瀬山司祭より「君には教区のユースコーデイネーター（以下YC）として働いてほしい」との依頼がありました。「なるほど。そういえば、かつて中部教区でもそういった役割の方を配置して、教区の青年活動が盛り上がったよなあ。」と思い、二つ返事で承諾させて頂きました。

私自身、二十代の頃は教区青年交流会の役員として、いわゆる「青年会活動」の中にどっぷりつかって来ました。が、三十を過ぎてからは、教区の宣教部員として活動をバックアップしていく働きの機会が増えるようになって参りました。しかし立場的に非常に曖昧で、他の参加者から「この人は教役者？参加者？キャンパー？」といった疑問が生じることもしばしばあったと思います。

九州

九州教区では、青年会組織はありませんが、各教会の青年たちのネットワークを使い、いろんなプログラムに参加を呼びかけています。継続して行っているプログラムとしては、協働関係を結んでいるフィリピン中央教区での「フィリピンワークキャンプ」があります。今年で三回目。参加した青年たちは、文化の違いを感じつつこれからの人生に大きなヒントを得て帰国してきます。それから、「長崎に立つ」という二泊三日の学びを続けている「平和を考えるプログラム」も八回目になりました。被爆者の方々に話をしていたとき、原子爆弾が投下された場所を歩いていると、被害と加害を経験している日本こそ、世界に「平和」を発信していかなければと、強く思います。学びを続けるうちに、「語り継ぐ」ことの大切さを感じました。そこで、学ぶだけではなく、伝える側にもなるために、平和ガイドを始めました。更に、学びを続けるうちに、日本の加害責任って何だろう？という壁に当たりました。事実はひとつなのはどうして賛否両論あるの？どれを信じればいいのか？靖国神社にあそこまでこだわるのはなぜ？と、わかっていないようです。まだまだたくさんあります。ただ、はつきりしていることは、「いのち」を「道具」にしてはいけないということ。私が出発することとは何か？を考えるために、新たに、夏のプログラムを計画中です。八月九日を長崎で過ごすことは「いのち」に向き合う良い機会ではないでしょうか。ご参加をお待ちしています。もう一つはつきりしていただくことを、言わせてください。「日本にも世界中のどこにも、人殺しのための施設は要りません。」（九州・福岡教会／浜生牧恵）

京都

五月二〜三日に青年一八名が参加し、大津聖マリア教会にて京都教区まつたりミーティングを行いました。初日は長崎で行われた「平和を考えるプログラム」の報告があり、草の根の運動であっても、青年が平和や将来について考える貴重な機会であることを再認識しました。その後、DVD「海にすわる辺野古六〇〇日」の「闘い」を見ました。地元では長い闘いがあり、子供の将来のために身をけずって基地建設反対で座り込んでいるおじいさんやおばあさん、若者達の姿を目の当たりにし、闘いの激しさに驚く人もいるとともに懇親会でも様々な思いを分かち合いました。翌日は中高生のためのJ'sキャンプの報告がされ、養護老人ホームに中高生が出かけ、自分と他者とを考える良い機会となったという感想が多かったです。短い時間でしたが自

横浜

教育主事と青少年チャプレンは、教区内の各教会に青少年の実態調査をお願いしました。青年会が組織されている教会、あるいは自主的に集いが持たれている教会はわずかで、教籍上は数十名を数えるがなかなか顔が見えないという教会が多いようです。また、「独自企画に対するサポーター体制」「青少年キャンプの継続」「ニュースレターの発行」「若い教役者の派遣」などの要望が寄せられました。青年チャプレンだけでは応じられない事柄もありましたが、これからの指針として見据えたいと思います。（横浜教区青年チャプレン／司祭 小林祐二）

北海道

北海道教区では、日韓聖公会青年セミナーに参加される広谷基子さんによる報告会を、青年交流会も兼ねて行いたいと考えています。四月二四〜二六日、テゼ共同体からブラザーギランをお迎えして、祈りと黙想の会が、カトリック、福音ルーテル、聖公会の共同青年実行委員によって行われました。この出会いを切っ掛けに、教派を超えた地域の信仰者としての連帯が生まれることを期待しています。（北海道・札幌聖ミカエル／司祭 木村夕子）

旭川聖マルコ教会青年会では、小さかった子どもが、中高生になってきて、青年活動を一緒にやるうと声をかけたら、いい返事をくれた青年が多くなってきたので、一度、顔見せでもしようという計画しました。五月四日旭川聖マルコ教会にて行う予定です。どうぞ、これからもよろしくお願いします。（北海道・旭川聖マルコ教会／能勢和孝）